

全労生 副議長

(基幹労連中央執行委員長)

津村 正男



自組織と生産性運動と一化を果たし、三菱重工業において、当時の労たと理解している。ており、お互いを信頼点とし昨日よりも今日の関係を自分なりに考工労組としての本部・働組合を脱退し新たにこうした経過を経たした上で労使協議を尽日、今日よりも明日へえてみることにした。支部体制が確立され組合を結成、現在の姿三菱重工労組は、労働くすという意味を込めと気概と希望をもっ出身組織の三菱重工労た。となったところもあ協約において会社とのた名称であると解釈して、安全で安心して働組の前身である三菱重しかし、戦後の会社る。その新たな組合の協議・交渉を行う場をている。き生活することのできる環境の維持・改善へ

労働組合と生産性運動

の1946年に結成されたが、三菱重工社の三分割（いわゆる財閥解体）により連合会も解散となり、3社ごとの労働組合となった。時は、上部・外部組織との関係から階級闘争労働組合も連合会の結成を受けていたところもあ産性運動三原則の理念なども、この経営協議巻く環境が大きく変わって来たが、職場を原か、

間の各支部の歴史は大は、労使は対立するも名称を用いている。一般的にいう春闘における要求提出や交渉は勿論のこと、経営概況のを果たす」と綱領に掲げている。近年、取りについて労使ともに再

きく異なっている。当のではなく、信頼にもとづく緊張ある健全なる要求提出や交渉は勿論のこと、経営概況のを果たす」と綱領に掲げている。近年、取りについて労使ともに再

たため、一部の支部にも沿ったものであっ会の名のもとに開催し

たため、一部の支部にも沿ったものであっ

たため、一部の支部にも沿ったものであっ

依頼を頂き、何を書こうかと思案したが、